

和歌山県内経済情勢報告

(令和6年10月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、緩やかに持ち直しているなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	足踏みの状況にある	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、衣料品の売上が減少しているものの、値上げの影響で客単価が上昇しているほか、南海トラフ地震臨時情報の発表などの影響により備蓄品需要が高まったことから、飲食料品の売上が増加している。

コンビニエンスストア販売は、節約志向の高まりや他業態の店舗との競合による客数の減少を受けて売上が減少している。

ドラッグストア販売は、化粧品や夏物商品の売上が増加しており、堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、エアコンやテレビが好調となっていることから、前年の売上を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響が緩和したほか、需要が堅調となっていることから前年を上回っている。

観光動向は、南海トラフ地震臨時情報の発表の影響で観光客数が減少している地域がみられるものの、円安の影響などにより外国人観光客数が増加していることから、堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- 南海トラフ地震臨時情報の発表を受けて、米や水などの災害備蓄品の需要が高まり、売上は前年を上回っている。(農業関係団体)
- 前年度と比べると来店客数や買上げ点数は減少し、客単価は上昇するという傾向が継続しており、売上はおおむね横ばいとなっている。8月下旬に台風が近畿地方に接近した影響で、水や缶詰などの備蓄品の売行きが好調となった。(百貨店・スーパー)
- 気温の高い日が続いていることなどから秋物衣料品の売行きが悪く、衣料品の売上は前年を下回っている。(百貨店・スーパー)
- 季節商品について、日焼け止めや制汗剤の売上は前年並みであったが、酷暑の影響で日常使用の暑さ対策用品が好調であった。(ドラッグストア)
- 猛暑の影響でエアコンの売上が好調であったほか、パリ五輪開催の影響などでテレビの売上も前年を上回った。(家電量販店)
- 他社からの乗換えが目立つなど、今期の受注状況は好調となっている。(自動車販売店)
- 南海トラフ地震臨時情報の発表による列車の運休の影響で、お盆の期間は外国人観光客が大幅に減少したが、円安の影響が継続していることから、今期を通してみれば、観光客数は前年を上回っている。(公共団体)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「生産用機械」などで低下していることから、全体の指数は低下している。

企業からは、中国経済減退の影響が継続していることなどから生産量が減少しているとの声が聞かれており、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 中国の内需が引き続き低調となっているほか、欧州でも在庫調整の影響で設備投資の需要が落ち込んでいるなど、海外向けの受注が低迷している。(生産用機械)
- 中国の不動産市場の停滞により海外向けの生産量は前年と比較して減少しているが、ビルや商業施設の建築需要が伸びていることから、国内向けの生産量は前年と比較して増加しており、全体としてはおおむね前年並みとなっている。(金属製品)
- 猛暑による洗濯回数の増加により衣料用洗剤の生産量が増加している。(化学)
- 自動車関連製品は、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響を受けて落ち込んでいた受注が戻りつつあるが、エネルギー関連製品は、中国経済減退の影響を受けて需要が減少しており、厳しい状況。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、おおむね横ばいで推移しているほか、新規求人数は、増加傾向にあり、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 「運輸業、郵便業」について、2024年問題によるドライバー不足から、継続して求人が増加している状況にあったところ、足もとでは、観光タクシーのドライバーの求人の増加も見受けられる。(公的機関)
- 民間の求人誌などにも掲載しているが応募はほとんどなく、知人からの紹介が多くを占めている状況である。(金属製品)
- 正規、非正規ともに従業員が不足している状況が続いており、募集を常に出し続けているが、応募が非常に少なく、充足する見通しは全く立っていない。来年度の新規採用についても、内定者は計画の半数程度に留まっている。(百貨店・スーパー)
- 営業部門については定着率が低くなっており、新卒採用後5年のうちに離職してしまう者も多く、従業員が不足している。(自動車販売店)
- 外国人観光客の増加に伴い、外国人労働者の雇用を希望する宿泊施設も増えてきているが、労働者の住まいの確保など、外国人労働者を雇用するハードルが高いことから、小さな宿泊施設では雇用にまでは至っていない。(公共団体)

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査(令和6年7-9月期調査)でみると、6年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査(令和6年7-9月期調査)でみると、6年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、貸家で前年を上回っているものの、持家、分譲で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、市町村、独立行政法人等で前年を下回っているものの、国、県で前年を上回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査(令和6年7-9月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、大企業で「上昇」超となっているものの、中堅企業、中小企業で「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 TEL : 073-422-6142